

ヒヤリ・ハット事例

一般社団法人千葉県産業資源循環協会

外注作業その他

2022.10.31までの回答分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	工場内	1名で引取車両の箱掃除	気温上昇により、熱中症のような症状が出た。	複数名で作業にあたる。			○		
2	岸壁	舳を保管施設へ入れるため、ロープを投げる時	舳の位置が遠く、岸壁上からロープを投げるとき、勢いが余り体が振られ落水の危険を感じた。	舳があまりに離れている場合、無理にロープは投げず、船で岸壁に寄せてもらう。岸壁ギリギリに立たず、内側に立ってロープの受け渡しをする。	○				
3	道路	自転車で走行しているとき	狭い歩道にて、歩行者を避けようとしたところ歩行者がふらつき、後ろから追突しそうになった。	歩行者を追い越すときはスピードを緩め、タイミングを待ったり、自転車の存在に気付いてもらうようにする。		○			
4	東西線南砂町駅ロータリー	東西線南砂町駅のロータリーから、丸八通りを左折しようとしたとき	左手後方を確認したら、自転車が接近していることに気づいた。付近の歩行者や丸八道路を通行する車両には注意していたが、自転車が通行することは少なかったの、びっくりした。	自転車の通行が少ないエリアでも、ミラーだけでなく後方を振り返り確認する。	○		○		
5	湾岸道路 千葉方面へ走行中	自家用車を運転している時	片側2車線の追い越し車線を走行中、側道から走行車線に合流した6t貨物車が、合流した走行車線からウインカーも出さず自車の前方へ急な車線変更をし、衝突しそうになった。	何となく車線変更しそうな雰囲気があったため、予測運転ができ減速し止まることが出来た。改めて「かもしれない運転」が重要だと思った。		○			
6	事務所の分析前処理スペースにて	サンプルの前処理を行う容器を拭いている時。	素手で拭いていたところ、ふちの鋭い場所を手を切りそうになった。	廃棄物からだけでなく、怪我からも守るという意味で手袋は最初からつけるべきであった。	○				
7	自社水処理設備で	薬液ポンプを交換していた時	薬液ポンプを取り外し塩ビ配管をもう一人の作業員が持ち上げた時、残っていた塩酸が自分にかかりそうになった。	薬液ポンプを取り外し時、薬液が塩ビ配管の中に残っていないか確認の徹底をする。	○				
8	事業所敷地 出入口	右折して出場した時	右側はミラーにより安全確認、左側は目視確認になるが、右から走行してくる車が見えにくいことがある。(駐車している車両と走行している車両の見間違えもある。)	二度・三度の再確認が必要。			○		
9	事務所	廃棄物のサンプルを小分けしている時	サンプルが飛散して事務所が廃棄物で汚染されそうになった。	廃棄物が飛散し周囲が汚染される恐れがあるときは、手袋・保護メガネをして飛散物をすぐに回収・清掃できる環境で行うようにすること。	○		○		
10	事務所内	100Vコンセント増設の作業をしている時	事務所内100Vブレーカーを切り電気が来ないか検電器で作業前に確認したら、電気が来ている箇所があった。	作業箇所全て作業前に検電器を使い確認する。感電事故が無いように継続する。			○		
11	場内	サンダーでアンカーボルトを切除している時	アンカーボルトに足を引っかけて転びそうになった。	アンカーボルトを切除。			○		
12	ストックヤード	サンダー掛けをしている時	コンセントを抜いてサンダーの刃を交換し、再度コンセントに入れ直した際、スイッチがオンになっていて突然刃が回ってしまった。	スイッチがオフになっていることを確認してから交換する。	○				

外注作業その他

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
13	事務所裏	木の伐採中	伐採した木を拾っている最中に、上から木が落ちてきた。	上を注視しながら作業をする。			○		
14	場内	非鉄を台秤で計量する際	品物が重すぎて床面に落下。	トラックスケールを使用するか、見た目で見ると感じた場合はフォークリフトで荷降ろしを行う。			○		
15	東京都江戸川区	乗用車で走行中	イヤホンをしている自転車の後方を走行中に、自転車が突然右折してきて接触しそうになった。	イヤホンをしている等の危険運転の車両からは、通常より距離をとるようにする。		○			
16	事務所 通用門 出入口	通用門から歩道に出るとき	自転車が歩道を猛スピードで走っていてぶつかりそうになった。	慎重に歩道に出る。ミラーを設置する。		○			
17	事務所 階段	階段を降りている時に	滑り止めの段差に足を引っかけ転倒しそうになった	慎重に降りる。滑り止めの段差をなくす。				○	
18	分析室	サンプル容器確認	袋に入っているサンプル瓶(プラスチック)が内圧で少し膨れていた。	事前に必ず容器を確認する。			○		
19	仕事帰りの道路	運転中	赤信号を認識するのが遅れてしまい、あわててブレーキを踏んだ。	仕事帰りでも気をゆるめず、集中して運転を行う。	○				
20	保管庫前	医療系フレコンバックを吊るためにユンボ爪取り付け作業中	爪がなかなかはまらず、ホース内の残圧の油をぬく際、ホースを上向きにしてしまったため、顔に油がかかるところでヒヤリとした。	油圧ホースを下向きにして残圧の油をぬく。まわりに人がいない場所にホースを向ける。	○				
21	場内	歩行中	フォークリフトの爪が上がっていて、足をぶつけそうになった。	フォークリフト使用後は爪を地面まで下げる。		○			
22	主灰建屋の横	汚泥の荷降ろし	荷降ろし最中、フォークリフトでバック時、車にあたる恐れがあった。	主灰建屋の横で作業していたため、十分なスペースが確保できなかった。見やすい位置、なおかつ十分なスペースを確保し、目視で確認できる場所で荷降ろしをする。			○		
23	予冷ノズル	ノズル噴霧点検	ノズルを抜いた開口部から高温のガスが噴き出し、顔に浴びそうになった。	正面に立たない。保護具の着用。	○				
24	作業現場:旧いすみ市岬公民館岬庁舎	地下タンクのマンホール付近で、資機材整理しているとき	マンホールプロテクターの蓋が開いている事に気づかず、中に落ちそうになった。	マンホールプロテクターの蓋は用が無ければ閉じる。作業区間内でも危険な個所には、目印になる物(カラーコーンなど)を置く。そもそも危険か所でない場所で、資材整理を行う。			○		
25	事務棟内従業員出入口	出入口がでるとき	ドアを開けた先に向こう側に他の人がいてぶつかりそうになった。	ドアの開閉はゆっくりと行い、人がいないこと確認。			○		

外注作業その他

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
26	八千代市村上駅付近	自家用車を運転しているとき	信号機が無い横断歩道に差し掛かった際に自転車が飛び出てきた。横断者確認の為に徐行していた為、停止することができたがスピードが出ていたら間に合わなかったと肝を冷やした。	警察の取り締まり強化対象だからという理由ではなく、常に危険となり合わせという意識をもって横断歩道を通過する際の徐行運転をより徹底する。		○			
27	ドラムヤード	ドラム缶を運んでいる時	段差でドラム缶を落としそうになった。	スピードを落として、低重心で運ぶ。			○		
28	オペレーター室を出た階段	階段を降りている時	鳩が出てきて階段を踏み外しそうになった。	鳩を駆除する。			○		
29	工場内	場内移動時	場内の設備を確認しながら移動していて、配管を跨いで通ろうとしたところ膝が配管に接触し転倒しそうになった。	跨がず通れる場所を探す。跨がないと通れない場合は膝を確認しながら跨ぐようにする。	○				
30	工場内で	デッキブラシにて玄関マット清掃時	力を入れてこすっていた時勢いがあまり転倒しそうになった。	力を入れる際には足を多めに開いて腰を低くした体制にて作業する。	○				
31	信号のない横断歩道	横断歩道を渡ろうとしたとき	路線バスが止まってくれたが、路線バスの後ろから乗用車が追いついていき接触しそうになった。	左右の確認をしっかりとる。バスを通り過ぎたところで一度止まり左右を確認する。		○	○		
32	一般道路	運転中	前方を走行していた車両が踏切を渡るとき、警報機が鳴ったため急停止し、バックしてきたのでヒヤッとした。	車間距離を十分とる。		○			
33	プラント内	ドラムをフォークリフトで運搬	ドラムが落ちて、中身でフォークリフトが滑り、人と接触しそうになった。	グリッパーの作動確認。(しっかりとかめているかチェックする) 定期交換をする。(グリッパー)	○				
34	回収先の敷地内	フォークリフトで積み込み作業中	荷物が置いてある狭い中での積み込みで、フォークリフトで曲がった時のフォークリフトの後方に荷物がぶつかりそうになった。	まわりの状況を常に把握して、フォークリフトの動き方にも注意する。			○		
35	事務所	書類を書庫(引き出し)にしまっている時	高い位置にある引き出しだったので、脚立に乗りしまっていたところ、書類が重く、引き出しに押され、脚立から落ちそうになってしまった。	高い位置の時は、ひとりで作業せず、支えてもらう等、手伝ってもらうようにする。			○		
36	事務所	階段を降りている時	すべって落ちた。	足元をよく見る。手すりを使って降りる。	○				
37	本社	階段を登っている時	段につまづき転びそうになった。	手すりを使い、ゆっくり登る。	○				
38	会社付近の道路	出勤中、運転している時	会社前に続く細めの道路を走行中、車道の左側を歩いていた男性が後方を確認しないまま車道を横断してきたため驚いてしまった。	進行方向が同じだったため、男性から距離はとっていたが、ながらスマホをしていたようだったので、渡りきるまで待つか、危険と判断した場合はクラクションをならす。		○			

収集運搬

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	廃棄物の荷下ろし場所	荷台に汚れ防止のため敷いていたブルーシートがリアのフックに引っ掛かり、絡みこんだブルーシートを作業員が取り除く作業をしていたとき	絡みこんだブルーシートを作業員が取り除く作業をしていたが、それを見ていた別の作業員が作業しやすいように、車を少しバックするようにドライバーに指示を出した。ドライバーは指示に従いバックしたが、取り除く作業をしていた作業員は驚きその場から離れた。	あくまでも、作業当事者の指示で動くもの、その指示を別の者がする場合、作業者と綿密にコミュニケーションを取りながらドライバーに指示を出すべき。	○	○			
2	排出事業場で	コンテナを交換するとき	コンテナ設置場所の路面に段差があり、コンテナローラー脱輪を防ぐために限界まで建屋に寄せなければならず、接触の危険があった。また、場内に照明がついておらず暗所での作業のため接触リスクがある。	路面段差を無くしてもらう。照明の取り付け。			○	○	
3	排出事業場で	脱水汚泥入りコンテナを交換するとき	コンテナ交換場所の前面が砂利になっており、コンテナローラー部分が砂利に引っかかった。無理に引き上げようとするとコンテナが傾いた状態になり、コンテナ落下事故につながる可能性がある。	砂利の場所を路面舗装する。				○	
4	排出事業場で	廃プラが入ったコンテナを交換するとき	8?のコンテナに14?近く廃棄物が積まれており、荷崩れを起こしそうになった。また、そのまま運搬してしまうと荷崩れ運搬途中に荷崩れを起こす危険性があった。	コンテナに積む廃棄物量を適正にする。		○	○		
5	排出事業場で	コンテナを設置するとき	前方が傾斜している上に、上方及び両側が狭い現場で、コンテナを設置するとき上部にあるH鋼に接触しそうになった。	作業環境改善のため、コンテナ設置位置及び車両合わせのガイドラインをマーキングしてもらう。			○		
6	排出事業場で	ユニックを使用して金属くずが入った鉄カゴを積もうとしていたとき	鉄カゴが老朽化しており、ユニック吊り時に鉄カゴの一部が外れてしまい荷台に落下した。	鉄カゴを新しいものにする。吊り荷の下に人が入らないようにする。				○	
7	排出事業場で	コンテナ交換時に	コンテナ置き場が砂利なので、コンテナが傾いており、搭載時に廃棄物が入ったコンテナが落下しそうになった。	置き場所を変更する。または、舗装をするか鉄板を敷く。			○		
8	排出事業場で	汚泥が入ったコンテナを交換するとき	汚泥の水分量が高いのに積む量が多過ぎるためコンテナ交換時に汚泥が漏洩。	水分が多い汚泥の場合はコンテナに対しての積込み量を減らす。もしくは汚泥の脱水率を上げてもらう。			○		
9	舢甲板	舢甲板上で本船積み替え中、シフトと呼ばれる舢の移動を行っているとき	脱落防止シートを掛け替え終わり所定の位置へ戻る際、足元のロープにつまずきそうになり、つまずき転倒していた場合、落水していたかもしれないと思った。	甲板上の足元確認、ロープは丸く乱雑しないようにまとめる。			○		
10	船橋市内	走行中	走行中に歩道を散歩していた犬が、突然、車道の方に走り出してきて、ブレーキをかけることがあった。飼い主も手綱を引いたので大事には至らなかった。	今回は散歩中の犬だったが、自転車の突然の横断や、子供の飛び出しなども考えられるので、歩行者や自転車の横を通る時は減速し、見通しの悪いところは一時停止をする。			○		

収集運搬

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
11	船橋市内	運搬中	信号のない横断歩道で、自転車が急に横断歩道にまがってきて、急ブレーキをかけてしまった。	自転車がみえた地点で徐行して、通り過ぎたのを確認してから出発する。		○			
12	西船橋駅前信号付近	歩行者が青信号にて歩行して、車両を停車し待っている時	青信号が早く点滅し、赤信号に変わり、車両を進んで行こうとしたら、歩行者が赤信号にもかかわらず、手を上げて走って歩道を渡って来て、ブレーキをかけ対応したが、ヒヤリとした。	交差点付近、信号機、青信号から赤信号に変わっても、歩行者の動きに対応し、交差点を安全に走行したい。		○			
13	一般道路	運転中	対向車がセンターラインを割って走ってきた。	他県ナンバーなどに気をつける。		○			
14	房総スカイライン	運転中	長い下り坂を下り、左カーブを曲がった瞬間、渋滞で信号待ちをしていた乗用車が見えた為、急ブレーキをしてしまった。	お盆休みが始まったのもあり、普段、渋滞していない所がしていたりする為、今後はいつも以上に「かもしれない運転」をする。			○		
15	R16号松ヶ丘付近	二車線の道路で渋滞していて、のろのろ運転状態のとき	車線を変更しようとしたところ、後からバイクが猛スピードで車と車の間をすりぬけていき、ヒヤリとした。	渋滞中は慌てず、むやみに車線変更はしないように心がけ、やむを得ず車線変更する場合は、早めにウインカーをだし、後方を確認する。車は確認できても、バイクは見えづらく、どこから出て来るかもわからないのでじゆうぶん気をつける。		○	○		
16	16号千葉北インター乗り口	走行中	片側2車線の左側走行中に右側から強引にトレーラーが割り込んできてブレーキをかけ接触回避した。	車間は空けていたので回避できたので今後も継続する。		○			
17	千葉北インター出口	千葉北インター出口から左車線を使用し、16号に合流する際	右側車線から方向指示器無しで左車線に車線変更して来た。	無理な車線変更する車輛が多いので他車線にも注意する。		○			
18	戸塚駅前交差点	信号待ちをしている時	自分の車両の横を電動キックボードが、すり抜け走行をしていた。	バックモニターやミラーを使い周りを確認する。		○			
19	東京都内 交差点内	左折二車線交差点内を左折中	左折車線が二車線ある交差点内を左折中、並行車が曲がりながらこちらの車線まではみ出してきて接触しそうになった。	破線で区分されているものの、周りの車がどのような動きをするのか常に予想した運転を心掛ける。		○			
20	廃油回収店舗	廃油回収作業中	店舗の廃油タンクから自社タンクローリーへ廃油を移送中に、先方の整備員が運転する車輛が、廃油移送ホースをタイヤで踏みそうになった。 (ホースはあらかじめ端に寄せて設置しており、通常、車輛は侵入しない場所です)	この時は、洗車後の拭き上げ作業をする為に、ホースが置いてある狭いスペースギリギリまで車を入れようとしており、その際ホースの存在に全く気づけなかった。 今後は、想定外のことが起きる車を踏まえ、ホース手前にパイロンを設置し注意喚起を行う。		○	○		
21	八千代市宮内交差点	交差点で赤信号で停車していた時	信号が青になり、前に止まっていたトラックが走り出したら後ろの扉が開き、中の荷物が落ちそうになったのでホーンを鳴らして停車させ運転手に知らせた。	停車中も何があるか分からないので、車間を空けて一呼吸してから出発すれば、荷物が落ちてきても対応出来ると思う。		○			

収集運搬

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動 (本人)	不安全行動 (他人)	不安全 状況	不安全 設備	重機 作業
22	県道280号松戸付近	走行中	反対車線で停車中のバスで渋滞していた車がバッシングしたので減速したら、バスの後ろ側と車の間から人が出てきて驚いた。	このような状況の時は減速と周囲確認の注意をする。		○	○		
23	タンクローリーの上部ステップ	検尺をする為に上った時	滑って転落しそうになった。	ステップに滑り止めテープを貼る。			○	○	
24	東京都葛飾区内 一般道路上	産業廃棄物 収集運搬作業(運転)従事中	交差点を左折後、自分の走行する予定の車線を自転車が進走。対向車線の車線を追い越そうとしたのだから、車前方向に行った際、危うく対向の車に跳ねられそうになっていた。スピードは出ておらず、双方認識していた為、無事であったが、万一、跳ねられていた場合、こちらの車線にも出てきて2次災害となる恐れがあった。	仮に対向車を自身に置き換えたとき、発進時の周囲の確認の重要性をよく理解できる事案であった。発信する際は周囲をよく確認し、ゆっくり発進することと思った。また、公道にはルールがあるがすべての人が守っているわけではなく、万一の状況にも対処できる環境を自ら作り続けなくてはならないと思った。		○			
25	回収先	回収作業後の検尺時	荷台の梯子をのぼる時に滑落しそうになった。	回収作業後に現場の状況次第では靴底に油が付着し滑り易い事があるので、ウエスで拭き取る等対策する。			○		
26	学園東大交通差点	信号待ちをしている時	左折をするトレーラーが横断歩道を渡る人に気付かず左折して歩行者が慌てて止まった。	交差点進入時は歩行者がいないか確認、徐行して進入する。		○	○		
27	高速道路(京葉道)	運転中	二車線、左側を通行中に右側車線を走行して来たトラックが、突然タイヤがバーストしてこちら側によって来た為、ヒヤリハットした。	運転中何があるかわからない為、常に周りに注意して運転する。		○			
28	回収先	伝票にサインをもらっているとき	エンジンを掛けようとしたところバッテリーが弱っていた。	定期交換前でもバッテリー交換。				○	
29	コンビニエンスストア	休憩を終えて歩道を通過して道路へ左折しようとしていた時	車が途切れるタイミングを見計らっていて、左側にはまだかなり離れた位置に歩行者がいるのは確認していた。車が途切れたので動き出そうとして左右を確認した時に右側はかなり近い位置に自転車が近づいていて動き出してはいなかったが、ひやりとした。	少し暗くなりはじめた自転車がライトをつけていなかった事も要因のひとつだと思いましたが薄暗くなった時はライトを点灯していない車も自転車もあるので自分は早めに点灯を心掛け、周囲の確認は一呼吸してよく確認をする。		○	○		
30	八千代市上高野	運転中	右側から、バイクが追い越してきた。	右側からもバイクが抜かして来ることもあるので注意して運転する。			○		
31	坂道での道路上	走行して来て、信号で停まった後	自車が停まった後に、高齢者と思われる前の車が、1m近く後ろにさがって来た。	信号停車時は、なるべく車両間隔をあけて停車する。		○			
32	四街道インター付近	四街道インターから帰社時	本線走行時に脇道から自車、大型車両が走行してきているのに確認もしないで飛び出してきて衝突寸前だった。	周囲に気を配り運転する。		○			
33	会社に入る道路	帰庫中	車庫に帰る途中に、対向車がセンターラインをはみ出して走行、急ブレーキをした。	常に注意して、運転を行う。		○			

収集運搬

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
34	首都高速 5号線・護国寺出口付近	左折ウインカーを出して護国寺出口に向かおうとした時	右車線からウインカーも出さず出口に向かって車線変更して来て追突しそうになった。	想定外の事も視野に入れながら運転する。(車間距離・減速など)		○			
35	都内 路上(片側3車線道路)	右側から真ん中の車線に移動したとき	左車線に停車しているバスを避けようと大型バイクが真ん中の車線移動しバスと自分の車両の間をすり抜けて行った。	気づかず完全に車線変更したらバイクを潰していたので、身体を動かし視野を広げ死角をなくし移動した周囲の状況を把握し予測しながら安全運転を心がける。		○			
36	神奈川県内 国道	運転中	片側2車線の国道の左車線を走行中、左折する為に右車線から強引に車線変更し急ブレーキをかけながら左折した車に接触しそうになった。	自分が思う以上に前方の車との車間距離をとって走行する。		○			
37	東北自動車道 羽生インター付近	高速道路走行中	道路上にボールが落ちていた。トラックが前車走行中だった為、発見が遅れ、またいで交わした。	車間距離を十分にとり早期発見、早めに車線変更 自分もボールなど工具等落とす側にならないよう、作業後は工具箱等指差呼称にて確認を行う。			○		
38	回収先敷地内	ドラム缶回収時	狭い場所から重いドラム缶を回収時、ドラムの重みに耐えれず壁とドラムの間に手を挟みそうになった。	狭い場所ではパイプレンチなどを使用し、広い場所まで移動を行ってから作業を行う。	○		○		
39	廃棄物置場の外で	4t平ボディで産廃回収時	積み終わり、シートを掛けている時、足を滑らせ、危なく落下するところだった。	シート掛け、高い場所での作業は足場を一步づつしっかり確保して作業する。			○		
40	公共施設(小学校)	給食室のゴミ置き場から移動する時	ちょうど下校の時間と同じになってしまい、回収を終えて動き出す際に、死角から走ってくる子どもたちに気を取られて、校舎の木にぶつかりそうになった。	子どもたちの動きは予測しづらいため、周囲を確保し、居なくなるまで待つこと。 先生方に誘導してもらうこと。		○	○		
41	成田押畑インター セブンイレブン 付近	乗車して運転中	走行中、前方車両が右側のコンビニに入ろうと急ブレーキ、ウインカーも点灯させずに停止、その後ウインカー点灯。 私は急ブレーキして追突を回避できた。	余裕のある車間距離・車間保持。		○			
42	道路	運転中	T字交差点を直進して通過しようとした時、一時停止の路地から出てきた車の後部に衝突しそうになった。	常時「かもしれない」運転を心掛ける。		○			

中間処理・最終処分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動 (本人)	不安全行動 (他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	自社工場	運搬車両へ積込中	運搬車両(コンテナ車)の荷台でドライバーが積込の準備中、重機オペレーターがドライバーに気づかず積込を開始、ドライバーと重機が折衝しそうになった。	作業前は作業の事前打ち合わせ、声掛け、作業指揮者により、安全確認後 作業指揮者の指示に従い作業を行う。	○	○			○
2	工場内東側	フォークリフトでの移動中	フォークリフトでの移動中、溜桁の蓋を踏みつけてしまい溜桁が外れる。フォークが溜桁に落ちたりはしないがヒヤリとした。	溜桁の土台が欠けており、踏みつけたことにより蓋が外れたので土台を補修し、蓋を踏まないように色付けを行い、踏まないようにした。				○	
3	プラント建屋内	重機での作業中	めまいと頭痛(恐らく熱中症)	こまめな塩分補給・水分補給と十分な休憩。			○		○
4	木くずのダンブヤード	お客様の車両の誘導中	お客様の車両が動いている際、その導線上に入ってしまった。他の作業員に声をかけられ安全な位置に避けた。	車両や重機の動きに気を配る。インカムを活用し、ドライバー、重機オペ、お客様の動きを作業員同士で共有する。	○		○		○
5	廃水処理施設	ポンプ運転を、前の作業員から引き継いで行っている時	作業を引き継いだ際、循環用のバルブが全開に開いていると知らず、急いで汚泥を送ろうとした際に大量の汚泥が流れ出た。	前の作業員は、引継ぎ時にバルブを閉めて引き渡す事を徹底する。また後の作業員も、作業前に必ず確認をすること。	○	○			
6	工場内で	重量部品をパレット積み重ねて保管しているとき	地震による重量部品の転倒・落下の危険性を感じた。	パレット積みで不安定だったので、地震がきても重量部品が落ちない専用ラックを製作(ラック転倒防止アンカー・棚からの落下防止柵)専用ラックでの保管で重量部品の安全な保管と区画の明確化・先入れ先出しができるようになった。			○		
7	工場内、ダンピングヤードで	ダンブアップ後、荷を展開し選別作業を行っているとき	場内を走行中のホイールローダーが廃棄物を踏み、廃棄物が飛散した。	荷降ろし車両搬入前に作業動線を考慮し荷降ろし場所の選定を行い、重機が荷を踏まない作業環境を整える。展開確認時、選別作業員で飛散性のあるものや危険物の確認を行い、先に回収を行う。			○		○
8	自社中間処理場内で	セメントリサイクル向けの搬入物を重機で混合プラントに投入していた時	混合プラントが搬入物の性状により異常停止したことに気づかず、投入ホッパーに搬入物を投入し続けたため、ベルトコンベアからあふれた搬入物が周辺にこぼれて山になった。	操作盤をウォッチする担当は、そこを離れる際は職長または副担当者に無線で伝え、代わってもらう。無線を有効に活用して重機オペレーターとの連絡を確実に取る。重機オペレーターは操作盤周辺にも気を配るよう朝礼時のKYで意識付けする。	○	○			○
9	1号炉場内	施設点検	側溝に水が溜まっていたので近づいた際、熱気を感じてヒヤリとした。	側溝水の手動作業を自動化。				○	
10	2号炉場内	巡回作業時	機器に散水されているところが水が少ししか出ておらずヒヤリ。	巡回項目に入れて監視する。			○		
11	プラント内	電気部品の調査	故障している電気部品の型番を確認する為、電気部品に触れたら、ビリッときてヒヤリとした。	電気機器には、不用意に触らない。ゴム手袋など絶縁性の手袋を着用する。	○		○		
12	場内	ショベルに乗っている時	建物の死角から人が出てきた。	常に徐行してよく見る。		○			○

中間処理・最終処分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
13	予冷室	熱交のコルゲート管の取付け作業する前	熱交のコルゲート管の取付け作業する前に予冷室に入る時に、コルゲート管が邪魔になり、落下防止ネットがない場所に移動したら、誤ってコルゲート管を落下させてしまった。 下に人がいなくて被害者はでなかったが、とても危険な思いをした。	落下防止ネットを付けるか、作業前に危険をきちんと予測して、落下防止ネットがある所に物を置くようになる。	○		○		
14	感染用ホイスト	ホイストを使い、医療を投入機フロアへ上げる時	医療をホイストに乗せ、上げる際にチェーンがホイストから外れていることに気付かず上げてしまい、付け直し上げたが、しっかり掛かってない状態で上げてしまった。	自分の不注意が原因の為、安全確認をしっかり行い作業する。	○				
15	新保管庫内	コンテナ内の灰ほぐし	0.25ユンボのバケット先端がコンテナ側面上部に激突 (コンテナ側面上部に細い凹みが出来てしまった。)	コンテナの縁ギリギリでバケットを動かさない。 なるべくゆっくりとバケットを動かす。 (コンテナの外側でバケットを動かす時は特に)よく見る。	○				○
16	右ピット手前	減温トラフの水ぬきホースをかたす時	ホースが奥にうまっていて、力いっぱいぬいたら、いきなりぬけて、ゴムパッチンみたいに顔にあたりそうになった。	ホースを奥に入れない。 力いっぱい引っぱらない。	○				
17	ゴミ保管庫	ユンボ乗車中	ゴミを破砕中、キャタピラにアーム先端が当たってしまった。	キャタピラの近くのゴミを掴みにいかない。	○				○
18	保管庫前	ユンボへのグリスアップ時	ユンボのアームヘグリスアップを行おうと側面ステップへ足をかけたところ、つま先が滑って、ヒヤリとした。	足元(つま先)確認。 ステップの掃除。 油で滑りやすい時がある。			○		○
19	工場内	スクラップの仕分けマグネットクレーン使用中	マグネットクレーンが故障し、電源が落ち、スクラップが落下した。	マグネット使用中は必要以上に高く上げず、絶対に下に入らない。				○	○
20	汚泥を移送するピット前で	鉄箱に汚泥を入れフォークリフトで運ぶ際	汚泥を入れすぎて重量が重くフォークリフトの後輪が浮いてしまった。	汚泥を入れすぎ無い様、適量に抑えて運ぶ。	○				
21	雑芥ピット内	水処理の切り替え作業	電灯が切れており、照明が点灯せず暗い為、ピット内の油污れに気が付かず水ピットマンホール付近で足を滑らして転倒の恐れがあった。	早急に照明の電球交換を行う必要がある。 マンホール付近の床掃除をする。			○	○	
22	キルン内部	キルンハツリ作業前	キルン内部ハツリ作業で入った際、まだクリンカー(クリンカーとは、焼成して得られた焼塊)が熱を持っており、靴底が溶け、靴下まで焦げて穴が空いた。	キルン内部が人が入れるくらい温度が下がっていても、表面はまだ熱を持っており、早く作業を終わらせて早く立ち上げる為に急かして内部に入らずに、十分に表面温度も下がってからキルン内部に入る。	○		○		
23	第一工場 No.4ピット前	回転フォークを使用して、水ドラムをピットへ空けている時	回転フォークの爪先からドラムが滑って落ちそうになった。	アタッチメントを装着する。				○	
24	パドル上ステージ	雑芥灰をパドルへ入れる時	ステージにあいている穴に足がはまりそうになった。	穴あき箇所を鉄板で補修する。				○	

中間処理・最終処分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
25	工場内	フォークリフトでドラム缶を移送している時	路面は少し温まっていたが、急な動作をしてなくて滑った。	ノーパンクタイヤの溝が無くなっていたので、溝が無くなる前に点検・交換を行う。				○	
26	ドラム缶保管ヤード内	ドラム缶を移送している時	ドラムクリッパーが外れてドラム缶を落とした。	ドラムクリッパーの爪が経年劣化により削れていたため、こまめに点検をし、交換をする。				○	
27	工場構内(通路)	フォークリフト運転	死角から車両が出てきた。	カーブミラーの設置、あるいは死角を無くす。(建屋等の改善)			○		
28	工場内	フォークでドラム運搬をしている時	保管してあるドラムで見えにくいところから、急にフォークが出てきた。	見えにくいところではスピードを落として、一時停止をする。			○		
29	工場内	フォークリフトでドラムをトラックから降ろしている時	フタがはずれて漏洩しそうになった。	ドラムを降ろす時は、フタバンドがしっかりしまっていることを確認する。			○		
30	荷降ろし場	フォークリフトにてトラックからドラムの荷降ろしをしている時	フォークリフトにてドラムをつかんでバックをしようとしたら、後方にフォークリフトが走行してきた。	後方を走行する時は合図をする。ドラム缶をつかんでいる最中は後方を通らず、一時停止して待つ。ドラムをつかんでバックする時は後方確認してから、バックを走行する。		○	○		
31	工場内通路	ドラム移送中	場内にへこみ(コンクリート割れ)があり、そこにフォークリフトのタイヤが入りこみ、振動で荷物を落としそうになった。	フォークリフトで通っても問題ないように割れた箇所を補修する。※補修する前はカラーコーン等を置いて注意喚起する。			○	○	
32	工場内	受け入れドラム保管場からテントにフォークリフトで移動中	工場内にトラックが多く止まっていたため、死角から人が出てきて接触しそうになった。	死角のある場所は一時停止をして安全確認をする。	○		○		
33	廃棄物屋内保管ヤード内	ドラム缶をフォークリフトで運搬中に	外から入るフォークと中から出るフォークが衝突しそうになった。	カーブミラーを設置する。出入口では一時停止する。	○	○	○		
34	場内で	フォークリフトで物を運んでいる時	物陰から勢いよく飛び出してきたフォークリフトと衝突しそうになった。	・フォークリフト速度制限 ・ミラー設置等による視界確保 ・フォークリフト運転者の周囲確認		○	○		
35	会社(工場内)で	フォークリフトでドラム移動している時	建物の陰から人や他のフォークリフトが出てきて、あやうく事故になりそうだった。	・周囲の確認 ・スピードの出し過ぎ注意			○		
36	工場荷降ろし場にて	フォークリフトでドラムを取る時	路面が雨で濡れていたため、フォークリフトが滑り、車に接触しそうになった。	フォークリフトのスピードを抑える。			○	○	
37	工場内ストックヤードにて	フォークで荷物の片づけ中	荷物のバランスが悪く崩れた。	地切り後の安定を確認してから荷物を運ぶ。	○				
38	雨天時工場内	歩行時	足元が滑り、転倒しそうになった。	足元の確認の確保。歩行は走らない。			○		
39	工場内	アルミ・スチール運搬時	手がすべり品物が落下した。	手元の確認、足元の確保、安全靴の着用。	○				○
40	工場内	バケット作業中	バケット作業中、オペレーターに話があるらしく、後から近寄ってきた。	バケット作業中は近寄らないように注意した。話がある時は遠くから見える位置で合図するようにする。バケット作業中は目視確認しながら作業する。危ないと思った時点で注意する。		○			

中間処理・最終処分

※No.41～56は65歳以上の方から寄せさせた事例です。

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
41	処分場	圧縮	PPバンド、ビニールが下に散らかること	整理・整頓・掃除	○				
42	処分場	ビニール圧縮作業	ビニールの作業を上向きで作業するので足下がおろそかになる。	ビニール投入する所にはビニールを置かない。	○				
43	工場内	使用済みの段ボールを片付けている時	床に置かれた段ボールにつまづき、転びそうになった。	段ボール片付けながら作業をする。足元に十分注意して作業をする。	○				
44	ビン缶など流すところ	ビン缶などをコンベアーに乗せる時	足元に落ちているビン缶などを踏み、転びそうになったり、ケガをしそうになる。	清掃をして、落ちているビン缶などを拾って、足元に注意する。安全靴を正しく履く。	○				
45	収集物の落とし込み部	缶の引っ張り	二人作業のため、相方のはたいたゴミが目に入る。	現在は流す場所が違い、一人作業になったので問題ない。			○		
46	収集物置場	収集物の分別の手伝い	ペットを拾い出し、投げたものが頭に直撃した。	周囲を良く確認し、人のいない方に投げてもらおうようにする。		○			
47	場内	ペット流しの時	みの先がひっかかって転んだ。	みを持って運ぶようにする。	○				
48	アルミプレス機の前	アルミのプレス	アルミプレス機から出たアルミが手から滑って足に落ちそうになった。	落とさないようがっしり持って運ぶ。	○				
49	プラ選別	作業中	ラインのピン作業中に、小さい半分がはねて来て耳に入った。	頭巾をかぶり防いでいる。			○		
50	スチール缶プレス機の前	プレス機からプレスされたスチール缶が押し出されてくるのを待っている時	プレス機から押し出されたスチール缶が手前に倒れた。もし倒れたスチール缶が足に当たっていたら、かなりの重量があるのでケガをしていた。	プレス機から押し出されたスチール缶が倒れても安全な距離をとり、安全を確認してから作業をする。			○		
51	工場	みですくっている時	ペットで足が滑った。	ラインでガラスのカケラが飛んでくるので、メガネをしている。フェイスマスクをしている。			○		
52	ライン	ピンを捨てている時	くつに刺さった。	気をつけるようにした。			○		
53	ライン	ピンを拾っている時	手を切るところだった。	気をつけるようにした。			○		
54	2階のレーン	ゴミ取りをしている時	落ちる勢いが強く、割れたビン缶が飛んできて、体・顔に当たったことがある。	落ちる所のガードを高くする。危険だと再認識したので、自分の身支度を顔をかくす、帽子をかぶったりする。			○		
55	2階のレーン	階段を下りる時	安全靴を履き、手すりにつかまって下りていたにもかかわらず、最後3段からすべって、お尻に青たんを作った。	あわてずゆっくり降りること。	○				
56	場内	ペット流しをしている時	ペットを集めて台の上に乗せる時、足元のペットをかたづけしないで、上にとって不安定な足元のまま作業をしていたので転びそうになった。	足元のペットをかたづけてから作業をする。	○				